

2023_1117「しし座流星と浅間山（写真）」日々の理科 3389号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

空が暗く空気が澄んでいる高原では、流星（流れ星）は珍しい現象ではありません。晴れた晩に1時間も星空を観察していれば、大抵数個の流星を見ることができます。特に明け方はの東の空では、流星に出会う確率が上がります。それは、地球が西から東に向かって自転していることが関係しています。

「流れ星は星ではない」という意見もありますが、実は非常に微妙です。流星の正体は宇宙空間を漂う小さな隕石や微粒子です。そのうちたまたま地球軌道と交差する位置にあったものが、地球大気とぶつかって「燃え尽きる」のが流星です。それらはどんなに小さくても「太陽系天体」には間違いなく、そういう意味では流星も「星」と言えるのです。

一年のうち何度か、「流星のもと」の密度が特に高い空間を地球が通過する時があります。その「流星のもと」は、彗星が残していったものです。通常の日よりもたくさんの、或いは明るい流星が多く見られるので「流星群」と呼ばれます。流星群は星空の決まった座標（輻射点＝ふくしゃてん）から放射状に飛ぶように見えるので、その位置の星座をとって「〇〇座流星群」と呼ばれます。最も有名なのが毎年11月に出現する「しし座流星群」（しし群）です。

極大日は11月17日ですが、しし座は春の星座なので、明け方まで待たないと輻射点が昇ってこないのが難点です。その流星の一つが浅間山のカメラに写っていました。よく見ると、桃色～緑色～白と色が変わっているのもわかります。

(2023年11月中旬／北軽井沢／東京から遠隔観測)

